

# 商学研究科 教員プロフィール

※2023年度シニア入試で  
学生を募集する先生の情報のみ  
掲載しております。

## 商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	水野 勝之 (みずの かつし)	
担当専修科目	前期課程:「計量経済学特論」「計量経済学特論演習」 後期課程:「計量経済学特殊研究」「計量経済学特殊演習」	
研究テーマ	経済指数と経済理論	
研究指導領域	<p>経済指数と経済理論の組み合わせにより新たな経済分析を生み出すことをテーマに据えたい。経済指数は経済指数、経済理論は経済理論、というように分離されて運用されていたが、その両者をリンクさせることにより、消費や生産理論において新たな理論展開ができる。その展開をもとに各種の応用と実証分析を行ってきた。研究指導としては、こうした背景をもとに、消費理論の再検討と、その応用、実証までを範囲としたい。生産理論も視野に入れる。</p>	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済指数</li> <li>・地域研究</li> <li>・経済変動モデル</li> <li>・H. タイルのシステム・ワイド・アプローチ</li> <li>・ディビジア指数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリッシュ指数</li> <li>・全要素生産性</li> <li>・質の指数</li> </ul>
志願者への メッセージなど	<p>まず分析に使う経済モデルであるが、これまで経済理論が前提としてきた硬直的な仮定をそのまま利用しては激動する経済変化に対応できない。既存の経済理論を一般化して、柔軟に分析できるようにしなければならない。この考え方を信条とし、消費分析や効用分析に当てはめて理論展開を行い、実証分析を行ってきた。</p> <p>志願者にも、既存の固定的な概念や手法にそのまま従うのではなく、それを打破して、より現実的な経済分析を行い、社会の役に立つような心構えを望む。そのために、研究のいろはを学び、それを応用展開できる力を身につけてもらいたい。</p>	

# 商学研究科 教員情報

<経済系列>

氏名	畑農 鋭矢 (はたの としや)	
担当専修科目	前期課程:「財政学特論」「財政学特論演習」 後期課程:「財政学特殊研究」「財政学特殊演習」	
研究テーマ	財政赤字のマクロ経済的影響 状態空間モデルの経済学への応用 経済主体のディープ・パラメータの計測 世論形成メカニズムに関する実証研究	
研究指導領域	公共経済学の立場から公共部門の役割や財政運営について研究する。そのために必修の知識としてミクロ経済学、マクロ経済学、統計学・計量経済学、統計データの活用法について学習を進める。経済学の理論をベースにした実証研究の俎上に載るのであれば、狭義の財政学や公共経済学にとどまらず、周辺領域に関する研究についても歓迎する。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政赤字</li> <li>・財政運営</li> <li>・中立命題</li> <li>・状態空間モデル</li> <li>・カルマン・フィルタ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディープ・パラメータ</li> <li>・世論形成メカニズム</li> <li>・パネル・データ</li> <li>・応用計量経済学</li> </ul>
志願者への メッセージなど	<p>「勉強」と「研究」は似ていますが、細部はずいぶん異なるものです。勉強は地図のある旅、どこに行けばゴール(答え)にたどり着けるのか大体分かっています。学校の勉強など、ナビ付きの自動車で舗装された道路を走っているようなものです。</p> <p>研究は地図のない(答えのない)所に踏み込むかもしれない旅です。誰も行ったことのない、または行った人はいても既に忘れられている場所を探す未知の旅です。道がなければ造らなければならないかもしれません。明かりがなければ懐中電灯を持って行く必要があります。自らが造る道、自らが持つ明かりが、経済学の理論であり、計量経済学の道具です。</p> <p>道なき道を進むためには、できるだけ強力な明かりが欲しいはずですが、その明かりを得るために大学院での勉強がきっと役に立つに違いありません。</p>	

## 商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	山田 知明（やまだ ともあき）	
担当専修科目	前期課程:「経済政策論特論」「経済政策論特論演習」	
研究テーマ	Heterogeneity in Macroeconomics	
研究指導領域	<p>動学的一般均衡理論に基づいて、様々な経済問題を定量的に分析する研究者を養成します。具体的なトピックとしては、経済格差やそれに伴う再分配政策、社会保障制度、健康保険制度などを想定しています。またマイクロデータを用いた家計の消費・貯蓄行動及び消費者行動の構造推計に対しても対象とします。</p>	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪Dynamic general equilibrium model with heterogeneous agents</li> <li>▪Consumption and savings</li> <li>▪Inequality</li> <li>▪Social security system</li> </ul>	
志願者への メッセージなど	英語と数学、プログラミングスキル(C・Fortran・Matlab・Python・R・Juia etc)を学んでください。	

## 商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	高浜 光信（たかはま みつのぶ）	
担当専修科目	前期課程：「国際経済学特論」「国際経済学特論演習」 後期課程：「国際経済学特殊研究」「国際経済学特殊演習」	
研究テーマ	通貨統合，国際通貨の選択と国際通貨システム改革に関わる理論・実証分析	
研究指導領域	国際マクロ経済学に関する理論・実証分析。特に、共通通貨ユーロをめぐる、通貨統合の経済効果に関する理論・実証分析を中心に研究を行っている。その他、各国の国際収支構造の分析、国際間のマネーフロー、通貨投機のメカニズム、東アジアにおける金融協力や、通貨圏形成と各国間の国際貿易構造の関係、国際通貨の生成過程や国際通貨制度に関する史的過程等についても関心をもっている。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際マクロ経済学</li> <li>・国際通貨システム</li> <li>・為替レート動学</li> <li>・通貨統合</li> <li>・国際収支</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際資本移動</li> <li>・経済成長と国際貿易</li> <li>・国際通貨の選択</li> <li>・貨幣論</li> <li>・国際貿易論</li> </ul>
志願者へのメッセージなど	経済学の理論モデルに基づく考え方や実証手段の習得とともに、歴史や現実の制度に対して深い関心をもつ志願者を希望します。	

## 商学研究科 教員情報

＜経済系列＞

氏名	熊澤 喜章 (くまざわ よしあき)	
担当専修科目	前期課程:「中小企業特論」「中小企業特論演習」	
研究テーマ	日英における中小工業の歴史研究	
研究指導領域	<p>日本とイギリスの工業化過程における中小工業の役割を歴史的に研究する。世界で唯一、自生的な産業革命を経験し、大規模工業が成立したイギリスにおいても、その後の中小工業の執拗な残存が確認される。東洋の中で唯一、自力での工業化を達成した日本では、中小工業ははじめから資本主義発展の基盤として前提されていた。この両国の資本主義発展のなかにおける、中小工業の残存とその役割を、比較検討する。</p>	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中小企業</li> <li>・中小工業</li> <li>・日本経済史</li> <li>・イギリス経済史</li> <li>・世界経済史</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史</li> <li>・イギリス史</li> <li>・苦汗産業</li> <li>・下請制</li> <li>・下請工業</li> </ul>
志願者への メッセージなど	<p>19世紀以降の世界経済史の知識が、必須の知識として求められる。イギリスにはじまった工業化の波が、いかに世界に波及し、世界を変えていったかを理解すること。それは一方では富の蓄積となり、他方では貧困の蓄積となっていた。それぞれの世界的条件の下で、それぞれの国家は、それぞれがもつ歴史的規定性のもとで世界資本主義の枠組みのなかに組み込まれていく、その過程を解き明かしたいという好奇心が必要である。</p>	

## 商学研究科 教員情報

＜商業系列＞

氏名	竹村 正明 (たけむら まさあき)	
担当専修科目	前期課程:「商業理論特論・演習」 後期課程:「商業理論特殊研究・演習」	
研究テーマ	お金儲けをするのは、なぜ難しいのかについての理論的研究 Theoretical understanding on business: Why business does not work we expected?	
研究指導領域	I can contribute your academic carrier by mainly two scientific procedures. The first one is the emprical study. I have conducted several emprical studies in my academic carrier, not only survey, but also field work. I call both as emprical studies. Only emprical study, I recognize the task in university. The second one is methodologies. I believe that methodological diversification is acceptable in the university research. Any method will be accepted, if it could be said it was scientific.	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪Competitiveness</li> <li>▪Competitives Strategy</li> <li>▪Economic Growth</li> <li>▪Methodology</li> </ul>	
志願者への メッセージなど	There is no opportunity in which only study you can during your academic carrier, except studying in graduate school. Study, study, study. Again study. Only study hard. Nothing else.	

## 商学研究科 教員情報

＜商業系列＞

氏名	若林 幸男（わかばやし ゆきお）	
担当専修科目	前期課程：「日本流通史特論」「日本流通史特論演習」 後期課程：「日本流通史特殊研究」「日本流通史特殊演習」	
研究テーマ	商品（一般消費財）の流通のみならず，産業財（資金や労働力）の流通史，又，情報の流通史について主に研究している。	
研究指導領域	本科目は流通およびマーケティングあるいはビジネス（企業）のケースを取り扱う。そこで展開するトピックはアメリカのビッグビジネス、日本のそれ、あるいは流通システムや企業システムそして、基礎にある資金や労働市場、情報システムの特性である。複雑に絡み合うこれらの諸テーマを科学的に分析、解析し、将来の展望につなげるための研究指導が行われることとなる。	
キーワード （10個以内）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通事業と流通システムの史的展開</li> <li>・企業システムの史的展開</li> <li>・情報の流通経路の発展と企業システムの関連</li> <li>・労働市場の特性と企業のリクルートシステムの変遷</li> <li>・企業戦略についてのケーススタディ</li> </ul>	
志願者への メッセージなど	マーケティング分野では、本研究室はマクロマーケティング部門に位置づけられるが、マネジリアルマーケティングのケースメソッドについても分析領域が及ぶ。歴史的、文化的に事象を相対化する手法を学び、それにより過去の分析から将来の展望を導き出す。こういった方法に興味をもって取り組んでほしい。	



## 商学研究科 教員情報

＜商業系列＞

氏名	原 頼利（はら よりとし）	
担当専修科目	前期課程:「流通システム論特論」「流通システム論特論演習」	
研究テーマ	流通における組織間関係に関する研究	
研究指導領域	サプライヤーから小売業者に至るまでのビジネス・プロセスにおける企業境界、組織間コーディネーション、組織間知識共有、知識やイノベーションの創造などの問題に関心をもっており、講義ではこれらの問題を扱う。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通チャネル</li> <li>・組織間関係</li> <li>・企業境界</li> <li>・制度</li> <li>・取引コスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケイパビリティ</li> <li>・イノベーション</li> <li>・知識共有</li> </ul>
志願者へのメッセージなど	講義では、最新の学術論文(主に英文)を使って、ディスカッションを行なう。教員と同じ研究領域を共有でき、積極的にディスカッションに参加できる学生を歓迎する。	